

「BEMS普及コンソーシアム京都」 平成27年度 第1回研究会 BEMS導入モデル事業報告



事務所導入モデル：
杉江電機工業株式会社

平成27年8月25日

株式会社 エネゲート

導入施設概要

自動車電装機器事業

電力契約種別：低圧総合利用契約

鉄筋造、4F建て 延床面積：96㎡

社員数：40名

築年数：23年

導入理由、経緯：本社以外にも複数店舗を
所有されており、経営理念にある環境にやさ
しい経営を続けるため、本社から先行して導
入を決意された。

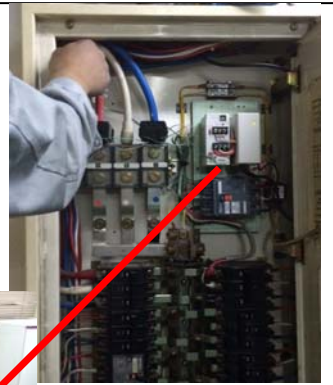
空調：電気方式ビルマルチエアコン

照明：工場はLED照明

給湯設備：電気温水器

その他機器：コンプレッサー等

主幹回路用センサー

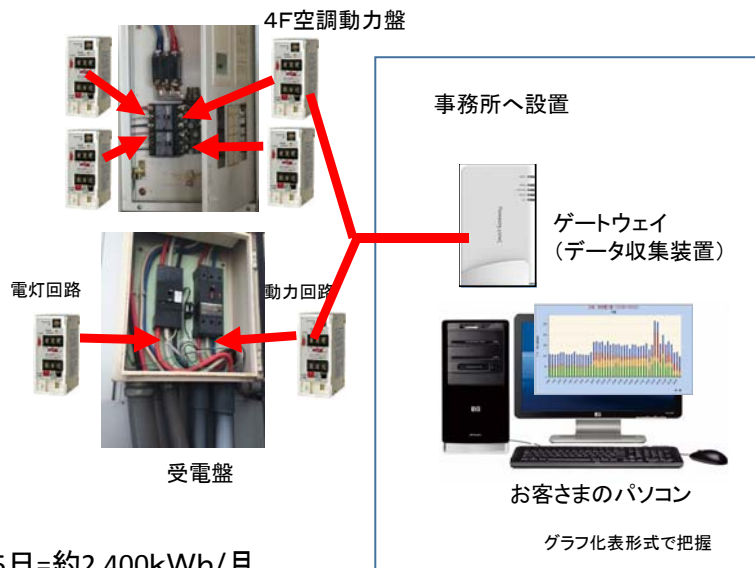
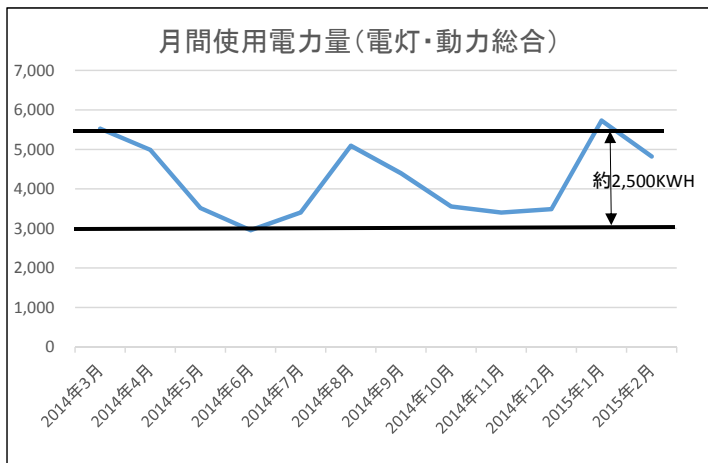


スマートゲートウェイ



空調機用センサー





年間の夏季冬季と中間期の比較差: 約2,500kWh

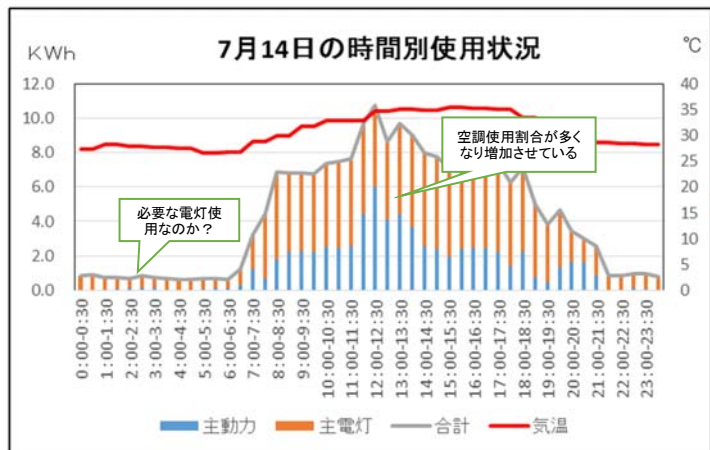
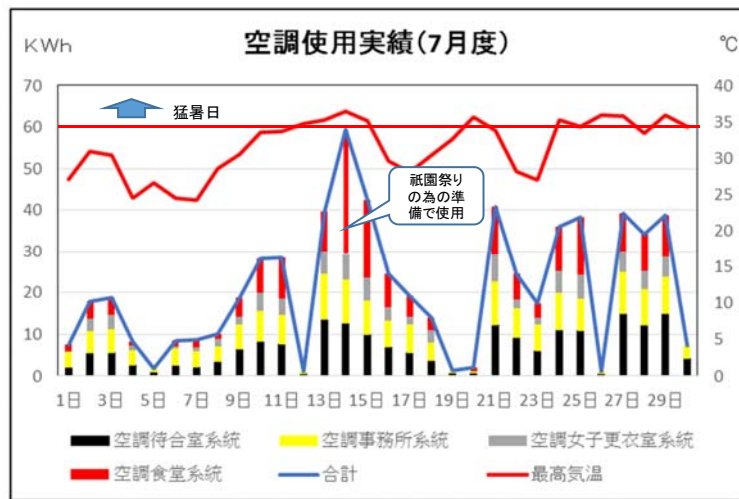
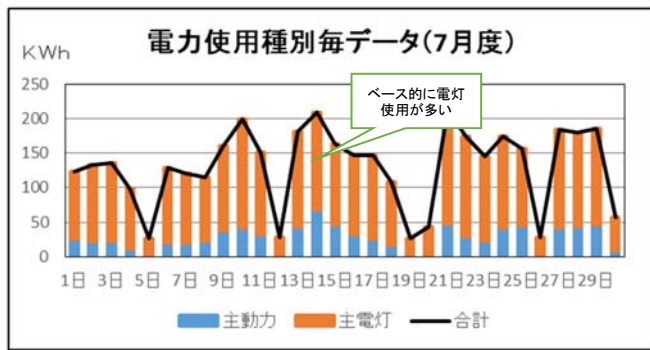
・空調機の影響

空調機消費電力 (約3kW × 4台) × 8時間使用 × 25日 = 約2,400kWh/月
 ほぼ空調機の影響であると考察致します。

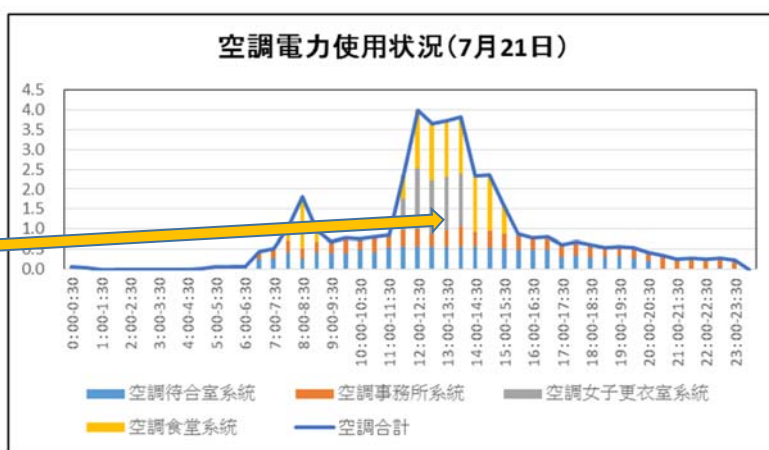
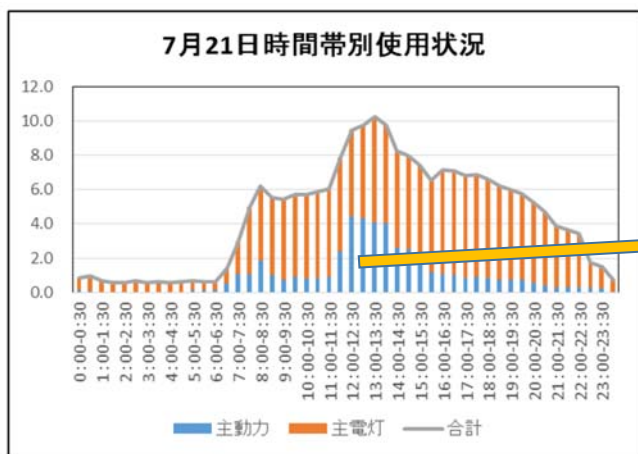
省エネ対策

- ・一日の電気使用量を把握して、使用用途別の使用時間帯を把握する。
- ・電気の使用時間が多い時間帯もしくは、営業されていない時間帯の使用実態を把握

「見える化システム」導入後の計測結果 (総合評価と対策)



1. ベース的には電灯回路(照明等)の使用が多い←LED化対策の御検討が必要と思われます。
2. 電灯回路が深夜でも使用されている。(常時点灯の必要性が検討要)
3. 年間通じて空調の影響と思われる変動がある。資料 1



考察

1. イベントの少なかった日においても、空調使用時間が長い個所があり、必要性を見極めて細目に停止させるルール作りが必要があると推定されます。
2. 電灯回路(照明回路)を今後LED化を行ったとしても、営業状況を考えた上で、不必要な点灯個所が無いかの検討が必要と思われます。

今後は冬季はさらに使用量が増加傾向にあるため、現状分析のため「見える化システム」を利用して、気づき・ルール化を行って頂き、さらなる省エネ・節電される事を期待致します。